

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人



練馬区立光が丘第一中学校

校長 豊田 貴志

令和8年度 第6号

令和8年10月6日

「聴くこと 伝えること」

校長 豊田 貴志

人は、自分が話しているときよりも、誰かの話を聴いているときの方が難しいのかもしれません。

自分の考えを伝えるときには、「こう言いたい」「分かってほしい」という気持ちがまずあります。そのため、言葉を選び、相手の反応を見て話します。

一方、人の話を聴いているときはどうでしょうか。相手が話している途中で、「きっとこういうことだろう」と決めつけてしまう、また自分が次に何を言おうかと考えてしまうことがあります。話を聴いているつもりが、実は十分に「聴いて」いないこともあるのではないのでしょうか。

学校生活では、毎日たくさんの人と関わります。授業では先生や友達の話聴き、学級活動や委員会活動では互いに意見を出し合います。休み時間には友達と様々な話をするでしょう。その中で、自分と同じ考えの人ばかりではありません。むしろ、考え方や感じ方が違うからこそ、うまく伝わらなかったり、意見がぶつかったりすることもあります。

そんなときに大切なのが、まずは相手の話を最後まで聴いてみることです。「自分とは違う」と感じた瞬間に否定するのではなく、「なぜそう考えたのだろう」「自分とはどこが違うのだろう」と少し立ち止まってみる。すると、それまで見えていなかったことに気付くことがあります。相手の意見に必ず賛成しなければならないわけではありません。最後まで聴いた上で、「私はこう考える」と伝えることも大切です。学校は、考え方の違う人たちが一緒に生活する場所です。だからこそ、自分の思いを伝えることと同じくらい、相手の思いを知ろうとすることが大切です。

また、「聴く」ということは、言葉を受け取るだけの行為ではありません。声の調子や表情、普段との違いなどから、「何か困っているのかな」「本当は別のことを伝えたいのかな」と気付くこともたくさんあります。誰かが悩んでいるとき、すぐに答えを出したり、励ましたりしなくても、ただ話を聴くこと自体が大きな支えになることもあります。自分の話を聴いてもらえるとうれしい。それはきっと誰でも同じです。だからこそ、自分がしてもらってうれしいことを、周りの人にもできる人であってほしいと思います。相手の話を大切に聴くことは、相手そのものを大切にすることにもつながります。



10月30日(金)には練馬文化センターで文化発表会があります。合唱は自分ひとりの声だけでは成立しません。隣の人の声、他のパートの声、伴奏の音をよく聴きながら、声を重ねていくことで、一つのハーモニーが生まれます。人の話を聴くことも、合唱で周りの声を聴くことも、どちらも「自分だけ」では成り立ちません。この秋、少しだけ耳を澄ませてみてください。今まで気付かなかった誰かの思いや、新しい考えに出会えるかもしれません。